

## あいさつについて考える

【長く教員をやっていると、いつしか初心を忘れている。気がつかないことを教えてくれるのは、学校関係者以外のことも多い】

パソコン関係の会社を経営している友人がいる。世の中は不況のようで、彼にもいろいろな苦労があるようだ。2ヶ月ほど前に、開発(プログラマー)の人間を一人採用したいが、誰か知っている人はいないか、という相談を受けた。コンピュータープログラマーといえば、今人気の職種であるし、それなりの知識も必要なだろう。私には適当な人物が思い当たらず、よい返事ができなかった。

それから1ヶ月ほどして、彼から新入社員を採用したことを知らされた。21歳の高卒の女性なのだそうだ。それもコンピューターの知識はないらしい。私はちょっと意外だったし、興味もあったので、なぜその人を採用するようになったのか、そのいきさつを彼に聞いてみた。彼の返事はまったく明快であった。

「あいさつがきちんとできるし、やる気がある。」

私のような世間知らずと違い、彼の人を見る目は確かなのだろう。もう少し詳しく説明すると、大学を卒業した立派な学歴を持った人や、コンピューターの知識のある人など、何人かがやって来たそうだった。しかし、この会社を志望した理由、あるいはハキハキと応答できる、などの面で彼には不満足であったようだ。彼の会社はそんなに大きな会社ではないので、一人の社員を採用するということは重大なことだと思う。その重要な人間を採用する決め手になったのが、「あいさつ」と「やる気」なのである。どこの学校を出てきたとかいう、いわゆる学歴ではなかったのだ。

しばらくして、私は山梨県である会社を経営している人と話す機会があり、その経営者がまったく同じ話をしてくれたことに驚いた。

「私のような商売では、電話の応対が勝負です。電話でのしゃべり方ひとつで会社のイメージが決まってしまう。社員教育の第一歩はあいさつです。」

そういえば昨年、職場実習をおこなう時、いろいろな職場に電話をしたが、とても爽やかな印象を持った職場と、そうでないところがあった。あいさつがしっかりとでき、ハキハキと話ができるということが、いかに社会で重要なことなのかを、私は最近思う。

「これからの会社は人間です。多くの仕事はコンピューターがやってくれる時代になった、だからその会社の『人』の重要性が余計にクローズアップされる時代になります。」

その山梨県の経営者はこう言い切った。どことなくうなずいてしまう話である。この文章を書きながら思い出すのは、昨日テストの答案を生徒に返した時のことである。名前を呼びながら答案を返す。返事もせずにひたたくように答案を持っていく生徒もいる。名前を呼べば「はい」と答えることの嬉しさが身にしみる。しかし、「ありがとうございました。」と言って答案をもらっていく生徒もいる。何がありがたいのか。私が採点をしたことに感謝しているのである。「採点してくれてありがとう。」なのである。私は教師であるから、採点をするのは当たり前なのだが、それに感謝してくれる。考えてみると、彼は1年生の時からずっと「ありがとうございました。」と言って答案をもらった。そういう生徒が、私が教えている3年生2クラス81人の生徒の中に一人だけいる。きっと、彼のような人間を採用する職場は得をすることだろう。

これも少し前のこと。私は小学校時代から親しくしている友人にこう言われた。

「おまえのような態度では、どこの会社でも使ってくれない。」

いつの間にか、自分の気づかぬうちに、横柄な態度やしゃべり方をしている自分。中学3年生男子の「ありがとうございました。」を聞いて、深く反省するのである。